



刊夕日六月十

社説
淺薄なる研究(下)
川崎文治

然も平町は好開川の水を採るべき先取得権を有し瑠璃の如き豊富なる水を自由に左右し得べきに拘らず其先取得権を放棄して一營利會社から水の供給を受けねばならぬ破目に陥つたとすれば研究會の云ふ水を探る權利……は一時の氣休め文句に過ぎず、權利があつても必らず供給者たる營利會社の鼻息をうかがつて協調を保もたねばならぬ以上寧ろ水を貰ふ權利と云ふ方が當て解る言葉であるから研究

會の主張する要求條件締結の程度には決して貰ひ水の境地を脱する事は出来ない而し研究會の云ふが如くならば、その要求條件に依つて平町が一營利會社から貰ひ水を爲すべく『安全の點に於て理想的であります』との事であるから、鬼の首の如く心得る要求條件が如何なるものか茲に物笑への種にも一寸紹介する

一、電氣企業社の取入口に於て平上水道の水利權を認むる事
二、水路の使用權は永久得る様承認せしむる事
三、平上水道の送水管に完全に送水し得る装置を

爲す事
四、水路水槽及送水装置の補修維持は會社の負擔
ぼくの樂が記(上)
鎌田町 生江徳明投

▽萬艘の船持ちらしい面をして世の潮風は野崎まつくら
▽喰過た栗腹えぐる御捌きのメスにわななく御親類筋

たる事
五、平上水道増水工事費の内若干金を寄附する事



開設
御料理 大村や
郡役所横通
旅館 大村屋
平町二丁目
電話一七五番

お乳が無くて
お困りな方の
赤チヤンを
お預り致します
姓名在社

看護婦派出
の求めに應ず
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

建築ペンキ塗
美術諸看板
硝子金銀文字
其他各種
大音堂
平町四丁目

常盤文藝
暮れつきた
I S 生

青く小高い
彼の岡の上に
ボブラの木立
さわ吹く風に
空を掃く

青く濃い
彼の山の下に
夢見る霧は
そよ吹く風に
ゆらくと

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
平町長橋町三五
川崎回文庫
(市込次郎規則書進呈)

和漆器屋
漆器指物
和漆器店
平町一丁目
電話四〇五番

キット買ッテ戴ケル
確信アル値段
米松(セメント)グリュウ
其他各種物
建物請負一般木村業
磐城建物株式會社
平町五丁目 電話五一八番

革新披露特別大興行
満員御禮申上候
人氣の焦點は本映畫の最高權威
帝キネ独占……日本登録願濟
小唄かこの鳥
哀話
東都説明界の新人 岡晃陽・獨唱澤光子嬢
來る九日限り絶対日延なし
有聲座
電話三一一番

平町星相
吉田眼科醫院

移轉廣告
前略當社は各位の御引立を蒙り日に月に發展致し候爲め従来の營業所にては不便尠からず依つて十月一日より左記へ移轉仕候間今後も倍舊の御援助願上候
平町南町郡役所前通り
東京恒産資會社磐城支社

冬衣 秋衣
流行
新柄
目丁三町平城磐
店服吳野中
番七六話電

電話に金融致し
株式賣買中値

磐城銀行	五〇、〇	五三、五
平銀行	五〇、〇	六八、〇
磐越銀行	一一、五	一〇、五
磐城實業	五〇、〇	四二、〇
磐城實新	三〇、〇	二八、〇
田村實銀	一一、五	一一、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二四、五
同 新	一五、〇	一八、八
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同 新	一一、五	一六、〇
七七銀行	一一、五	九、八
郡山電氣	五〇、〇	四〇、〇
同 新	二五、〇	一九、〇
只見川電	一一、五	七、五
植田水電	一一、五	一五、五
好問水電	一一、五	一三、〇
磐城製菓	一一、五	五、〇
磐城製菓	一一、五	二、五
平信託	五〇、〇	二五、〇
磐城勸業	一一、五	一三、五
植田物産	三〇、〇	二六、〇
平製水	二五、〇	一八、〇
好問軌道	五〇、〇	三〇、〇
入山新	三三、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	五、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四一、〇
同 新	二二、五	一八、〇
磐城セメン	五〇、〇	六二、五
同 新	三三、五	四二、〇
平運送	一一、五	八、〇

平町田町 電話三三三番
丸登株式会社
川添房二郎

電話に金融致し

銘 格	拂込	時價
磐城銀行	五〇、〇	五三、五
平銀行	五〇、〇	六八、〇
磐越銀行	一一、五	一〇、五
磐城實業	五〇、〇	四二、〇
磐城實新	三〇、〇	二八、〇
田村實銀	一一、五	一一、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二四、五
同 新	一五、〇	一八、八
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同 新	一一、五	一六、〇
七七銀行	一一、五	九、八
郡山電氣	五〇、〇	四〇、〇
同 新	二五、〇	一九、〇
只見川電	一一、五	七、五
植田水電	一一、五	一五、五
好問水電	一一、五	一三、〇
磐城製菓	一一、五	五、〇
磐城製菓	一一、五	二、五
平信託	五〇、〇	二五、〇
磐城勸業	一一、五	一三、五
植田物産	三〇、〇	二六、〇
平製水	二五、〇	一八、〇
好問軌道	五〇、〇	三〇、〇
入山新	三三、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	五、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四一、〇
同 新	二二、五	一八、〇
磐城セメン	五〇、〇	六二、五
同 新	三三、五	四二、〇
平運送	一一、五	八、〇

入山炭礦の納入米は 大半が組悪米と判明

本縣技師其他検査 疑獄事件を惹起する

石城郡湯本町入山探炭株式會社に對し双葉郡浪江町米穀商佐藤一より不正米を納入せる件に關し小野本縣技師安島平穀物支所主任其他は三日同會社に赴き該米を検査せるに一車百六十俵の中六十俵は契約通りの普通不正を利する

不合理な慣習取引

農家や商人を集めて協議 平穀物検査所のキヲ煎りて

石城郡産米は其米質及び産額に於て本縣中優位を占むる事は何人も是れを認むる處だが産米価格は唯一の安値で之れが買受拂に至つては獨り奸商を利するに過ぎぬ

新道路支線

近く工事着手 補助決定した

平町南新道路の支線六道路に對する改修工事に對する補助額決定し去る一日許可されしを以て來月十五日から工事に着手する筈であるが請負入札の期日は近く定むる由

消防基金に

納税奨励金を 神谷優良組合

石城郡に於いて納税精神普久の爲め組織されつつある納税組合は高久、大野、上下小川、渡邊、鹿島の數ヶ村を除く外何れも各町村に是れが組織を見るに至り其數四百八十に達して居るが就中神谷消防組納税組合の

成績は頗る見るものがある現に各部落には小頭及伍長が世話人として集金其他の納税事務に當り大正四年以來其筋から交附された奨励金は是れを消防組の基本金として積立して居るといふ

平町外七ヶ村聯合の 壯烈なる消防演習

日頃の訓練を發揮し 華々しい武裝競技

平町外内郷、好間、飯野、夏井、平窪、高久、箕輪の七ヶ村聯合秋季消防演習は來る十二日午前九時から平町に於て執行すべく決定した

彌麻郡外視察

耶麻郡千里村々長丸山六郎氏以下村會議員六名役場吏員二名の郡外視察團は五日來平住吉屋本店に投宿し平町附近の各種状態を視察した

不平受付

投書歓迎

煙筒の掃除 先般貴紙の傳へる處に依ると防火上の見地から平署は各區に火防組合を置き一週一回かに亘つて煙筒掃除を勵行せしむる様に督勵する由でしたが未だ其様な模様もなく依然として煙筒掃除が充分でないため油煙が遠慮なしに舞ひ込み實に困つて居ります

募集

文藝其他一般投稿を募集します

伊藤平署長の答 各區に於て夫々勵行して居る事と信じて居ましたが未だ實行するに至らない區があるを促して一日も早く勵行せしめる様にします

味がしみません 大根の味噌つけ ごく甘鹽にしてつけた澤庵大根を、よく洗つて水氣をぬぐひとり、半日ほど陰干にしてみそにつけこみますみそは溜りの多い赤みそがよろこいのです。これは少くとも二三ヶ月すぎないとみその味がよくしみません



濃色が 多く紫加茂川鼠藤茶色等の本てんの無地のものが一般に迎へられてゐる、あづま下駄もやはり白木か生地ぬりの南部表が同數位出てゐるがつまかけはあまりかけなくなり、

花柳界 ではこのごろあづま下駄をまさ塗りしたものに色彩の強い緒をたて朱字で表に名前を入れたものを譽ればききと云つてお稽古ばきとして盛んに用ひて居る

川前の紅葉 見頃は廿日か 磐城の郡馬溪と稱せられた逐年途策に杖ひく人の數を増す川前村地内夏井川岸一帶の紅葉は早くも黄ばんで來た模様であるが見頃は廿日頃であらうとの事

常磐片々

昨日上遠野村で議會報告演説會を催した事によつて比佐代議士の存在的確 ナゼ平町で第一に開かなかつた等と野暮な事を云ひなさんな

秋の履物

このごろの履物には一體にうす齒で脊のひくものが流行したが婦人ものは白木の兩ぐりが一番多くこれからは夏の唐表はすたつて殆ど南部表と

男もの

は相變らず 柎下駄だが柎目の十本十四

三郡衛生調査

本縣衛生課では今月末から約一ヶ月間の豫定で内務省の保健衛生調査指針に基き濱通り石城双葉相馬三郡の保健

平町人事

出生 △橋本小路 上原字十郎氏三男治 △二丁目 當時東京府日暮里町酒井周藏氏三女キツ子 △梅香町 永山定吉氏長男幸平

鐵道大改造

レールを改良 鐵道省にては常磐線の地盤